

須坂市 米子大瀑布

「北信署」須坂市の南東部、群馬県境の四阿山(二、二五四メートル)、浦倉山(二、〇九一メートル)を始め上田市境の根子岳(二、二〇七メートル)及び奇妙山に囲まれたこの一帯は、三十四万年前の火山の噴火により形成された直径三キロメートルにも及ぶカルデラ地形で、その懸崖に並んで落ちる二



米子大瀑布 (左が権現滝、右が不動滝)

本の滝が日本の滝百選の一つ「米子大瀑布」です。

四阿山、根子岳の深山幽谷を源流に流れ落ちるこの二本の滝の一方を「権現滝(男滝)七十五メートル」、もう一方を「不動滝(女滝)八十五メートル」と言い、権現滝は水量が多く轟音とともに豪快に落ちる様子が男性的で、不動滝は水量が少なく霧状に流れ落ちる姿が女性的と言われています。

この二つの滝が有名なのは、日本有数の「夫婦滝」のためと言われています。また、秋の瀑布周辺の紅葉もすばらしく、赤や黄色に色づく頃はひとさわ美しい自然を見に多くの人が訪れます。

この滝の直下近くには、修験者の水行の霊場「米子不動尊奥の院」が大瀑布を背負って建てられており、夏には滝に打たれる白装束の行者の姿も見られます。

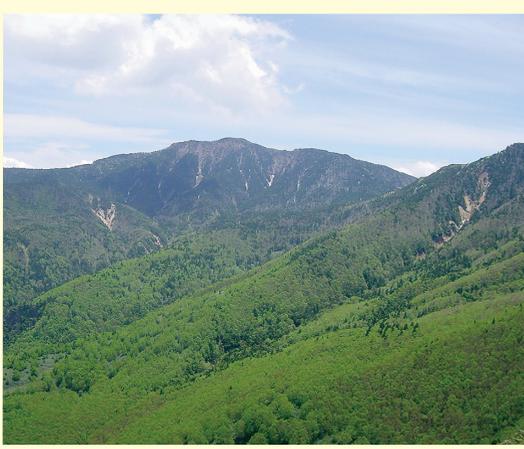
浦倉山山麓標高一、五〇〇メートル付近はかつて鉾山(米子鉾山)でした。寛保年間頃、米子村の竹前権兵衛氏がこの鉾山の硫黄を当時の幕府に売り、その資金を用いて米子新田の開拓を行ったと伝えられています。明治になり企業による採掘が始まり、当鉾山から須坂市まで全長十四キロメートルの索道が架けられ硫黄や蠟石の生産が昭和三十三年の閉山まで行われていました。

この一角に大瀑布展望に絶好な平坦な場所があります。この場所は鉾山関係者の生活の跡地で、学校や社宅、診療所があり、硫黄の需要が増大した第二次世界大戦当時には千五百人が生活していたと

言われています。

米子大瀑布近くには駐車場があり、そこから米子不動尊奥の院―大瀑布―米子鉾山跡地と巡ることができ遊歩道もあり二時間程で周遊することができます。

また、根子岳―四阿山に登る登山道もあり、鬱蒼としたカンバの森をとり根子岳に向かいます。登山道から鉾山の坑道跡を垣間見ることでもでき、毎年六月には有志による登山道の整備が行われます。前述の米子大瀑布直上から根子岳、四阿山並びに浦倉山にかけての米子山国有林(管理面積一、八六三ヘクタール)は、昭和三十八年に保安林として整備するため国が買い入れた森林で、水土保持林、森林と人の共生林となっており、ともにイヌワシの生息が確認されたことから大型鳥類生息地保護林として指定されています。



登山道より四阿山遠望

▼アクセス

- (所在地) 長野県須坂市
- お車でお越しの場合
- ・上信越自動車道須坂長野東ICから五十分
- ・須坂駅から四十分
- ※十月の土・日・祝日はマイカー規制有り(シャトルバス利用)



二条の滝と索道やぐら 昭和15年

当時の米子鉾山 (資料提供: 須坂市 竹前政重氏)